

第7回古賀市公共交通活性化委員会 会議録（要点筆記）

|           |   |  |     |
|-----------|---|--|-----|
| 開催日時      | 平成 27 年 6 月 25 日（木） 14：00～15:00   |  |     |
| 開催場所      | 市役所 中会議室  | 公開の可否  | 可   |
| 事務局       | 総務部 経営企画課   | 傍聴者数   | 4 人 |
| 公開しなかった理由 |   |  |     |
| 出席者       | 委員  | 鈴木委員長<br>中菌委員、後藤委員（代理）、前田委員、佐藤委員、廣池委員、<br>河村委員、坂崎委員、松崎委員、三坂委員、渡利委員、藤本委員、高原委員 |     |
|           | 事務局   | 中野総務部長<br>水野経営企画課長、中野係長、藤本係員   |     |
|           | その他   | 村上利男氏（西鉄バス宗像）  |     |
| 議題        | ・提言書のとりまとめについて  |  |     |
| 配布資料      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメ</li> <li>・提言書（案）</li> </ul> |  |     |

## 第7回古賀市公共交通活性化委員会（会議概要）

### 1. 委員長あいさつ

公共交通活性化委員会は、1年前の6月27日に第1回の委員会を行い1年にわたって古賀市の公共交通の活性化に関してご意見を頂いてきた。第7回目は提言書に関して、ご意見を頂戴したい。

### 2. 議題

提言書のとりまとめについて

（事務局）

これまでの委員会においていただいたご意見、アンケート調査結果を元に提言書案を作成させていただいた。あくまでも案であるので、委員の皆様のご意見により修正していただきたい。内容について読み上げさせていただく。

<別紙の提言書（案）を読み上げ>

（委員長）

事務局に提示していただいた案では、まとめの箇所が弱い気がしたので私の方で修正案を作成させていただいた。

<別紙の提言書（案）の修正案を読み上げ>

ポイントとしては、現行の西鉄バスの経済性、財政負担の問題と同時にこの委員会においてコミュニティバス導入への強い要望があったことを示すべきと考える。この委員会でコミュニティバスの導入が良いか悪いか判断するよりも長い時間をかけて市民・利用者・行政・交通事業者等が集まり、各地域でニーズが違うので草の根的な意見交換の場を設け、意見を集約し利用者の調査を実施したうえで議論を続けることが重要と考える。持続的な取り組みを実施して欲しいということで提言書(案)の修正案を提出した。

提言書についてご意見・感想があればお願いしたい。

（委員）

この提言書については、ホームページ等で公表する予定はあるのか。

(事務局)

今回の会議録及び会議資料としての公開はされるが、とりわけ提言書、単独での公表は現在のところ考えていないので検討させていただきたい。

(委員)

最後の委員会を欠席したのでどういう結論になったか分からないが、時間が足りなく表面的な話し合いで終わったように思う。福津・新宮のコミュニティバスの運営方法と古賀市の西鉄バスとの比較なども足りない。新宮は、1時間に1本バス6台で夜9時まで循環しているのに対し、古賀は2、3時間に1本しかない。

西鉄が補助金ありきで企業努力（経費を下げる）をしているのかも分からなかった、そのあたりも含めた検証も必要ではなかったか。いずれにしても、このままでは中途半端であり議論を深めていくべきである。

(委員)

コミュニティバスが赤字で採算性がないことを強調している。この捉え方に異論がある。福祉の立場から臨み、例えば、福祉に5千万円の予算を確保して、それ以外について努力をするのであれば理解できる。赤字になると採算のことを懸念してばかりでは話が進まない。

まとめの修正案については賛成。「コミュニティバスについては特段の議論が必要である」この文言を追加して欲しいと思う。公共交通の意見を取りまとめた議員の資料を参照してほしい。4年前に遡ると当時5人の議員がコミュニティバスを必要とிட்டが4年間何も動かなかった。現在11人議員がコミュニティバスのことを公約に掲げて当選したのに放置するのは問題である。

提案ですが、市長・議会議長に対して市議会議員11人がコミュニティバス創設検討委員会設置の要請するぐらいの提案を提言書に入れて欲しい。

長い時間をかけコミュニティバスについて議論をしてきて、必要であるという意見があるのに、赤字だから駄目と片付けるのではなくコミュニティバスを掲げて当選した議員さんにも参加してもらいたい。

(委員長)

19名中11名の議員がコミュニティバスに関する意見を出しているという状況からも継続的にゼロベースでコミュニティバスを入れるのかどうか議論をする場を作る必要があるが、また先ほどの文言については、そこまでの強い口調のものを提言書に入れるかどうかは検討の余地あり。

山間部と都市部では意見が違おうと思うので必ず受益者負担の問題にぶつかる。その際には、移動手段の確保するという福祉的な価値が市民にとってどれだけの価値があるか

評価したうえで全ての市民に問い、どれくらいの価値を認め、どれくらいの税金を投入するのか議論する必要がある。

文言につきましては事務局と相談したい。他にご意見はないか。

(委員)

提言書に入れるのかどうかの判断はつきかねるが、タイムスケジュールが提示されれば進め方もはっきりしてくるのでは。

(委員)

タイムテーブルが組まれるのであれば公共交通を単独で捉えるのではなく、人口ビジョン・総合戦略等も策定されるであろうから、まちづくりを総合的に見て、まち全体を作るという意識で公共交通を取り込んでいただけるとよいのではないか。

提言書の「2. 古賀市の公共交通における課題について（1）短期的課題について」の項目において、ページが分かれているので、もう少し見やすいレイアウトにしてはどうか。

(委員長)

これまで交通体系について議論をしてきたが、まちづくり・福祉・教育等に関する問題も関係してくる。今後、委員会で議論を継続的に考えているのか、事務局から意見を聞きたい。

(事務局)

1年間で公共交通の理解も深まったのではと考えている。できれば引き続き行いたい。

活性化委員会は、任期が1年であるが、古賀市の公共交通の結論を1年で出すつもりはなくみなさんの疑問・意見等出していただいて提言書という形でまとめるが、提言書に記載しているように、今後も検討していくべき課題もあり活性化委員会は継続していきたい。委員も総入れ替えするつもりはなく、できればこの1年の議論をご承知の皆様へ引き受けていただきたいが、この場で確認することは差し控えたい。この活性化委員会は一旦終了とする。今後新規であるのか継続かは申し上げられませんが、引き続き議論をする場は設けたいと考えている。

(委員長)

引き続き活性化委員会が、実のある議論を行なうために委員会も工夫が必要である。福祉担当・教育担当から意見を聞き、公共交通とどのように連携を取ればよいかということについても議論を深めていきたい。

(委員)

提言書にあるように地域ごとの真の市民ニーズの把握が、一番大事で筈内において、どんなニーズがあるか聞いてほしい。

突き詰めるとコミュニティバスしかないと思う。1日に3本しか走っていないような西鉄に3～4千万補助して、ただ走らせればいいのではない。11名の議員に頑張ってもらいたい。

(委員)

提言書はよくまとめていると思う。いろいろな意見は出たが、正式なものでもなくてもある程度でも試験的なプランを出さないと具体的に進まないのではないかと。問題点は共有できたと思う。

提言書のページ番号がないのでつけたほうがいい。

(事務局)

申し訳ない。以後、留意する。

(委員)

提言書は良くできているが、スケジュール、時限的なものについては、目標に具体的な数値が必要。当面の間というのは曖昧である。補助金の金額も年々増えており、今後のことも考えて具体的な数値が必要だと思う。他の計画でもアクションプランがあるが、短期で出来ること、中期で考えることがあるが、路線バスでもコミュニティバスでも必要なことで短期であれば時刻表・利用促進は出来るので数値目標を設定して実行が必要。

(委員)

地域ごとの市民ニーズの把握が一番重要なことと思う。それを把握したうえで出来る出来ないものがあると思うが、予算の範囲内で試験的なプランを練り議論すると建設的な委員会になるのではないかと。

(委員)

古賀市の予算が財政的に無理であるなら、国の公共交通補助金制度を活用するにはどうすればよいか。他の自治体の例も踏まえて検討する必要がある。

(委員)

補助金には要件があり、計画を立てていく段階で活用できるかどうか、検討すればよい。提言書を作成して今後プランを立てていくのであれば、補助金の話はその中で必要に応じて提示すればよい。

(委員)

提言書を読んでコミュニティバスの問題解決が難しいのがよく分かる。市内の西鉄バスを全部やめれば予算が4～5千万浮く。その予算でコミュニティバスがいいのか乗り合いタクシーがいいのか検討する必要がある。西鉄バスありきで、それを補完するものについて考えていたが、白紙で検討してはどうか。

前回も公約に掲げた議員が多いが、コミュニティバスは導入されていない。それにも関わらず、今回も公約に掲げた議員が多くいる。コミュニティバス導入が難しいなど深く考えてないのではないか。

(事務局)

現在6月議会中で議員を擁護するわけではないが、4人が一般質問で公共交通の問題を取り上げていて、議会のたびに毎回この問題を取り上げ、市長と議論を交わしているので関心を持って取り組んでいると感じている。

(委員長)

今後、委員会が継続するに当たりタイムスケジュールを明確にする必要があり、全体の流れの中で、委員会の位置づけをはっきりさせる必要がある。

西鉄バスの現状を改善する場合でもコミュニティバス導入する場合でも財政的な問題について、市担当が委員会に参加し市民と議論する場を作る。福祉・教育担当についても参加してもらいそれぞれの視点で意見をだしてもらおうなど、委員会の枠組みを工夫することを検討する必要がある。

ニーズの把握が重要であり、今度委員会が開催されればその前半で利用実態調査や数箇所で意見交換会をしてその意見を集約して委員会に挙げていただく。その中でコミュニティバスが必要となれば委員会で提言していく方法を取ることが必要と思う。

今回の意見をまとめ最終的な提言書を作成することに委員長と事務局に一任していただきたいがよろしいか。

<委員一同、了承する>

(委員長)

提言書に関する意見の取りまとめと今後の委員会についての議論は終了とする。